

# 令和4年度 事業報告

令和5年6月

公益財団法人 高速道路調査会

# 目 次

## 【1】 事業の報告

I	公益目的事業 1	1
	1 調査研究事業	1
	(1) 調査研究	
	(2) 研究助成	
	2 情報提供事業	6
	(1) 機関誌『高速道路と自動車』の発行	
	(2) 「道路と交通論文賞」の表彰	
	(3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等	
	(4) 講演会の開催	
	(5) 研究発表会の開催	
	(6) 海外道路情報の収集・提供	
	(7) 国際道路機関との情報交換・交流	
II	公益目的事業 2	10
	講習等事業	10
	(1) 講習会	
	(2) 高速道路の点検診断に関する講習および資格付与	
	(3) 海外道路調査団の派遣	
	(4) 留学支援	
III	公益目的事業 3	14
	展示会事業	14
	(1) 展示会の開催	
	(2) 新技術等のインターネットによる情報提供	
IV	公益目的事業 4	16
	協力・支援事業	16
	(1) 「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援	
	(2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援	
V	収益事業 1	17
	調査研究事業	17

## 【2】 組織の運営

1	会員	18
	(1) 賛助会員	
	(2) フェロー会員	
2	評議員会、理事会	18
	(1) 評議員会	
	(2) 理事会	
	(3) 評議員選定委員会	
	(4) その他	
3	業務執行体制、内部管理体制、情報管理	20
	(1) 業務執行体制	
	(2) 内部管理体制	
	(3) 情報管理	

## 目次【1】事業の報告Ⅰ～Ⅴの事業内容は次のとおり

### ○ 公益目的事業 1

高速道路などの経済的、技術的諸課題に関する調査研究および研究助成ならびに事業活動から得られた有用な情報の提供、普及・啓発を通して科学技術の振興に寄与する事業  
(調査研究事業、情報提供事業)

### ○ 公益目的事業 2

高速道路の建設・管理・運営に携わる広範な人材の能力開発、技術力向上に資する講習会などの実施および海外道路調査などの機会の提供ならびに高速道路の点検診断に関する資格制度によって人材の育成を図る事業  
(講習等事業)

### ○ 公益目的事業 3

高速道路に関する新技術・新工法、新サービスなどの普及・活用促進を図る展示会の開催などを通して技術開発を促進し高速道路の適正な建設整備、管理保全に寄与する事業  
(展示会事業、新技術等のインターネットによる情報提供)

### ○ 公益目的事業 4

高速道路の安全性・信頼性・利便性の向上など社会に貢献する目的の事業  
(協力・支援事業)

### ○ 収益事業 1

受託契約による調査研究および協力・支援業務の実施  
(調査研究事業)

## 【1】事業の報告

(公財) 高速道路調査会中期事業計画(2019～2023年度)および令和4年度事業計画書に基づいて実施した事業の経過と実績について報告する。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で各事業を実施した結果、新型コロナウイルス発生前の事業活動実績を保つことができた。

### I 公益目的事業1

#### 1 調査研究事業

学識経験者によって構成する「総合研究委員会」を設置し、総合的に調査研究活動の方針を審議した。この審議結果に基づき各研究部会(経済・経営研究部会、道路・交通工学研究部会、高速道路クオリティ研究部会)は、高速道路などに関する社会経済、技術や環境保全など具体的な研究テーマを設定し調査研究を行った。

● **総合研究委員会**(藤野 陽三 委員長)

第1回: 令和4年11月28日

第2回: 令和5年3月30日

#### (1) 調査研究

各研究部会は、研究課題ごとに当該分野に精通する学識経験者と経験豊富な専門家などから構成する専門研究委員会を設け、調査研究を行った。

研究にあたっては、講習等事業と連携を図り研究成果を積極的に情報発信するほか、若手研究者などとの人的ネットワークの拡充を目指した。

● **経済・経営研究部会**(根本 敏則 部会長)

高速道路整備による経済効果、有料道路制度、総合交通政策および道路事業の推進や枠組み、関連する法令などについて調査研究を行った。

第1回: 令和4年10月25日

第2回: 令和5年3月16日

◇ **諸外国における AET および走行距離課金の導入状況に関する調査研究委員会**(加藤 一誠 委員長)

諸外国における AET(料金収受のキャッシュレス化)や走行距離課金の導入状況を調査し、日本の高速道路料金制度への示唆や持続可能な高速道路料金制度の検討を行う。

今年度は、諸外国における AET および走行距離課金の実施・検討状況などについて調査研究を行った。(令和4年度新規)

第1回: 令和4年5月23日

第2回: 令和5年1月12日

◇ **高速道路と物流施策動向に関する調査研究委員会**(手塚 広一郎 委員長)

「総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)」が令和3年6月に閣議決定され、物流DXの推進など今後の物流が目指すべき方向性が示されたことから、施策動向の把握や高速道路への対応状況などを踏まえ、今後の物流における高速道路のあり方などの検討を行う。

今年度は、労働力の不足など物流を取り巻く環境の変化などについて調査研究を行った。(令和4年度新規)

第1回：令和4年6月20日

◇ 将来の高速道路の交通需要予測に関する調査研究委員会（原田 昇 委員長）

高速道路の交通需要を取り巻く条件は、昨今の人口動向や自動車保有台数・所有形態の変化、職業ドライバーの働き方改革等の社会情勢の変化、自動運転技術等の進展、新型コロナウイルスによる新しい生活様式の定着を起因とする今後の不透明な交通需要動向など変化の節目を迎えている。

他方、高速道路会社が算定する推計交通量は説明力や精度の高い推計手法を構築することが求められていることから、本委員会では交通推計手法について継続的な検証や改善を行うため必要な検討を行う。併せて、前述した高速道路を取り巻く条件に関し、推計手法への反映の考え方や高速道路会社のリスクの経営判断に資する手法を検討する。

今年度は、高速道路の利用に影響を与える社会情勢について調査検討および意見交換を実施した。(令和元年度からの継続)

第1回：令和4年9月13日

● 道路・交通工学研究部会（西村 和夫 部会長）

高速道路の建設と維持管理の技術および交通安全対策について調査研究を行った。

第1回：令和4年10月7日

第2回：令和5年3月16日

◇ 高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究委員会（兵藤 哲朗 委員長）

昨今、情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、さまざまな分野においてビッグデータの活用が積極的に進められており、道路交通分野においても、車両やドライバーなどから得られるビッグデータ（以下「交通ビッグデータ」という）の活用や技術の検討が進められている。

本研究は、自動運転、第5世代移動通信システム(5G)、MaaS(Mobility as a Service)の普及等を見据え、リアルタイムで移動に関する大量のデータが容易かつ低遅延に取得可能となる環境下において、高速道路における中長期的展望について研究を行うものである。

今年度は、交通ビッグデータ取扱事業者等先進事例に関するヒアリングを通じて、中長期的観点から高速道路事業との協働の可能性や利用者サービスとして高速道路で取り組むべき対策について検討し、プローブデータを活用した交通容量推定や人口統計情報を活用した交通結節点の需要予測の検討を行った。(平成29年度からの継続)

第1回：令和4年10月12日

◇ 高速道路の橋梁技術史に関する調査研究委員会（二羽 淳一郎 委員長）

高速道路の維持管理を行う上で、管理対象となる道路構造物の成り立ちを知っておくことは、大変重要である。本研究は、高速道路会社が培ってきた橋梁技術の黎明期から最新技術に至るまでの変遷について、その背景と関連付けて取りまとめ、今後の橋梁技術の維持・向上に貢献することを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、委員会報告書の執筆作業を進め、取りまとめを行った。(平成30年度からの継続)

第1回拡大幹事会：令和4年4月13日

◇ **高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究委員会**（倉内 慎也 委員長）

平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、「高速道路での居眠り運転防止に向けた効果的な対策に関する調査研究」（以下「先行研究」という）を実施し、実態把握、発生原因、対策（カフェイン摂取と短時間睡眠が効果的）、高速道路会社の広報面の取組みなどについて整理した。

先行研究以降、高速道路会社では交通安全啓発や薄層舗装などの整備、大型駐車マス増設等ハード・ソフト両面の安全対策に取り組んでいる。また、運転サポート機能を搭載した車両の普及等車両側の進化もめざましい状況にある。一方、居眠り運転が想起される追突死亡事故も相変わらず発生している。このような背景を踏まえ、居眠り運転が想起される重大事故防止に向けた対策とその効果について、研究を行うものである。

今年度は、ドライビングシミュレーターを活用した光刺激や会話による注意の解放等の実験を行い覚醒度向上効果の検証を行った。（平成 30 年度からの継続）

第 1 回：令和 4 年 7 月 20 日

● **高速道路クオリティ研究部会**（内山 久雄 部会長）

高速道路利用者へのサービス、道路機能、道路の高度活用、景観、環境および道路緑化の向上と啓発について調査研究を行った。

第 1 回：令和 4 年 10 月 6 日

第 2 回：令和 5 年 3 月 13 日

◇ **高速道路のカーボンニュートラルに向けた総合的な施策等に関する基礎的研究委員会**  
（石田 東生 委員長）

2050 年カーボンニュートラルに向けて、国を挙げてこの実現に向けた産学官が連携した取り組みが始まっている。国土交通省でもグリーン社会の実現に向けた「国土交通グリーンチャレンジ」（令和 3 年 7 月）が策定され、2050 年の長期を見据えつつ、2030 年度までの 10 年間に重点的に取り組む分野横断・官民連携のプロジェクト、政策パッケージを取りまとめ、戦略的に実施することとされた。

これらの背景を踏まえて、高速道路事業においてカーボンニュートラルに貢献できる項目を整理することを目的とする。

今年度は、委員会を立ち上げ、国内外でのカーボンニュートラルに向けた取り組み状況の情報収集、高速道路からの CO2 排出量の試算、シナリオ分析、高速道路のあるべき姿の検討などを行った。（令和 4 年度新規）

第 1 回：令和 4 年 9 月 27 日

第 2 回：令和 4 年 12 月 21 日

第 3 回：令和 5 年 3 月 8 日

◇ **高速道路の景観史に関する調査研究委員会**（中村 良夫 委員長）

名神・東名高速道路といった高速道路建設の初期から、安全で快適な運転に必要な道路の計画・設計に関する検討を端緒として開始された景観研究は、以後、約 60 年間余にわたり土木分野での景観の理念とともに実践的アプローチがなされてきた。

この間の高速道路における景観の実践的アプローチについて、時代的・社会的背景と関連付けつつ書き留めることは、高速道路の普遍的役割を深く理解し確認する上で必要性が高く意義がある。また、今後のインフラ整備や更新のあり方を問う上で、新しい生活様式や社会経済の変革を見据えた道路空間の創造、美しさやゆとりのある社会文化環境の形成に寄与することは、高速道路に関わる技術者として大変重要なことである。

今年度は、委員会を立ち上げ、執筆方針の審議、関連文献の収集を行った。(令和4年度新規)  
第1回：令和5年1月27日

☆ **高速道路等における大型車長時間駐車対策に関する調査研究委員会**(内山 久雄 委員長)

各高速道路会社では、慢性的に混雑している高速道路のSA・PAの大型車駐車マスの改善策として駐車マスの増設を進めているが、増設しても他の車両が集まってきており、大幅な改善効果が発揮されていない。また、ドライバーの休憩・休息に対する法的な罰則が強化されたことなどにより、高速道路SA・PAでの駐車時間が長時間化していることも混雑の要因となっている。

従って、駐車マスの増設を進めるだけでは抜本的な対策とはならず、トラックの運行実態を踏まえた上で、今後の対応について議論することが必要である。

これらの背景を踏まえ、本委員会では、学識経験者、専門家で構成する調査研究委員会を立ち上げ、高速道路SA・PAの混雑解消およびトラックドライバーの労働環境改善に向けた、これからの高速道路休憩施設等利用のあり方についての検討を行うものである。

今年度は、統計データやアンケート・ヒアリング結果等から大型車長時間駐車の実態や背景・要因などを整理し、大型車長時間駐車対策に対する対応の方向性について検討を行った(令和4年度新規)

第1回：令和4年8月3日

第2回：令和4年10月24日

第3回：令和4年12月27日

## (2) 研究助成

研究活動の活性化、若手研究者の育成および実務者による研究の奨励を目的として、高速道路などに関連する社会的・経済的・技術的な研究課題を公募し、応募の中から選定した研究について助成を行う。

今年度は、令和4年3月に助成決定し、5月に助成金を支援した以下の7件の研究が行われた。

### 令和4年度 研究助成実施課題

研究課題	所属機関	代表者
インターチェンジや高速道路整備が地域経済にもたらす効果の計測	日本大学経済学部 計量経済学専攻 教授	行武 憲史 氏
高速道路ネットワーク整備が大地震後のレジリエンスにおける経済回復速度を向上させる効果の研究	京都大学大学院 工学研究科 教授	藤井 聡 氏
疲労き裂進展シミュレーションを援用した鋼橋の維持管理手法に関する研究	名古屋大学大学院 工学研究科土木工学専攻 准教授	判治 剛 氏
鋼橋高力ボルト継手に対するIH塗膜剥離の施工条件探索	大阪大学大学院 工学研究科地球総合工学専攻 准教授	廣畑 幹人 氏
床版取り換えに適した鋼-コンクリートずれ止め構造を用いた弾性合成桁に関する研究	日本大学理工学部 交通システム工学科 教授	谷口 望 氏
ドライバーの運転行動の異質性による追従挙動および車線変更行動の差異に関する研究	横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 大学院生	池谷 風馬 氏 (共同研究者： 田中 伸治 教授)
高強度の降雨イベントに対応する新しい緑化基盤の開発に関する研究	東京農業大学地域環境科学部 教授	橘 隆一 氏

また、令和5年度の研究助成課題について以下の活動を行い、31件の応募の中から下表のとおり9件の助成課題を決定した。

- ・募集要領の審議（令和3年度成果の報告もあわせて実施）
  - 経済・経営研究部会：令和4年10月25日
  - 道路・交通工学研究部会：令和4年10月7日
  - 高速道路クオリティ研究部会：令和4年10月6日
- ・募集要領の決定 総合研究委員会：令和4年11月28日
- ・募集期間 令和4年12月12日～令和5年2月13日
- ・助成対象の審議
  - 経済・経営研究部会：令和5年3月16日
  - 道路・交通工学研究部会…令和5年3月16日
  - 高速道路クオリティ研究部会：令和5年3月13日
- ・助成対象の決定 総合研究委員会：令和5年3月30日

令和5年度 研究助成決定課題

研究課題	所属機関	代表者
因果効果の異質性を考慮した高速道路インターチェンジ整備効果の推定	神戸大学大学院 工学研究科 教授	織田澤 利守 氏
高速道路SA/PAの地域密着型サービス施設としての利活用促進事業とエリアマネジメントに関する研究	流通科学大学経済学部 教授	植松 宏之 氏
凍結防止剤による腐食劣化が進行したPC箱桁橋の安全性評価に関する研究	金沢工業大学工学部 環境土木工学科 教授	田中 泰司 氏
舗装ひび割れからの雨水浸透と下層路盤の侵食に関する研究	山口大学大学院 創成科学研究科 准教授	中島 伸一郎 氏
杭頭部に地盤改良を施した複合基礎における地盤の側方流動に対する抵抗性に関する研究	京都大学大学院 工学研究科 准教授	澤村 康生 氏
降雪時の高速道路マネジメントを支援する積雪状態把握と高速道路走行状態の予測に関する研究	早稲田大学創造理工学部 社会環境工学科 教授	佐々木 邦明 氏
道路斜面の地下水分布を見える化できるIoT地盤変状検知センサーの開発	長崎大学大学院 工学研究科 教授	大嶺 聖 氏
膨潤性地山に掘削したトンネルの時間遅れ変状メカニズムと長期安定性評価方法に関する研究	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授	崔 瑛 氏
高速道路長距離ドライバーの休憩行動を考慮したSA/PA整備に関する研究	東京都立大学都市環境学部 助教	柳原 正実 氏

## 2 情報提供事業

学識経験者や専門家によって構成する「情報提供事業委員会」および「編集委員会」を設置し、情報提供事業の基本方針や運営方法などを審議した。この審議結果に基づき、当法人で実施した調査研究の成果ならびに海外の高速道路を含む幅広い分野の各種情報などを広く社会に普及・活用されるよう当法人のウェブサイトや機関誌などを通して発信し提供した。また、インターネットを利用することで、高速道路の役割や必要性について効果的・効率的に情報提供できるよう当法人ウェブサイトの充実を図った。

なお、講習会や研究発表会などは、他機関の技術者継続教育（CPD：Continuing Professional Development）プログラムの制度を活用し、より多くの参加者を募るよう努めた。

- 情報提供事業委員会  
令和5年2月6日

### (1) 機関誌『高速道路と自動車』の発行

高速道路と自動車などに関する諸問題や技術課題について取りあげる『高速道路と自動車』を毎月1日に発行した。本誌の編集方針および掲載内容は「編集委員会」で、「技術レポート」欄に掲載する内容は「技術レポート委員会」で審議した。

今年度は、特集として4月号では「Society5.0の実現に向けた取組み」、9月号では「高速道路の大規模更新・修繕」、12月号では「高速道路の将来構想」を企画した。

- 編集委員会  
第1回：令和4年5月18日  
第2回：令和4年8月1日  
第3回：令和4年11月17日  
第4回：令和5年3月2日
- 技術レポート委員会  
第1回：令和4年4月7日  
第2回：令和4年7月28日  
第3回：令和4年12月1日

### (2) 「道路と交通論文賞」の表彰

道路と交通に係わる新進気鋭の研究者を育成し実務者による研究を奨励することを目的として、『高速道路と自動車』に投稿・掲載された研究論文を対象に「道路と交通論文賞」の表彰を行った。

選考は、学識経験者と経験豊富な専門家で構成する「道路と交通論文賞選考委員会」で審査・選考し授賞論文を決定した。

- 第42回道路と交通論文賞選考委員会  
令和4年5月10日
- 論文賞の表彰  
令和4年6月1日

- 表彰論文

休憩施設駐車場における効率的な駐車ます配置変更による効果検証 『高速道路と自動車』令和3年5月号掲載	
西川 悟史 氏 大澤 浩司 氏	西日本高速道路株式会社 経営企画部調査計画課 主任 NEXCO 西日本コンサルタンツ株式会社 調査計画部 次長 (所属等は掲載時のもの)

### (3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等

調査研究成果および高速道路の社会的・経済的・技術的な諸課題に関する知識などの普及・活用の促進を図ることを目的に、各種出版物の販売や閲覧サービスを行った。

今年度は『高速道路の舗装技術史』を4月に、『安全管理の手引き（第6版）』を11月に発刊した。

### (4) 講演会の開催

国内外の高速道路などに関する知識の普及・啓発ならびに高速道路事業への理解促進を目的として、学識経験者・官公庁・高速道路事業者および民間企業の有識者などを講師に迎え講演会を開催した。

なお、聴講者の利便性等に配慮し、昨年度に引き続き東京および大阪の講演会について、研究発表会との2日間開催を行うこととし、オンデマンド方式のウェブ配信も実施した。

#### 第1回 東京

日 時	令和4年8月4日	
場 所	星陵会館（東京都千代田区）	
聴講者数	131名（うちウェブ聴講者：81名）	
プログラム	[演 題]	[講 師]
	東日本高速道路（株）の最近の取り組み	東日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 計画調整課長 辻 功太 氏
	首都高速道路（株）の最近の取り組み	首都高速道路株式会社 経営企画部 経営戦略課 課長代理 前田 剛 氏
	中日本高速道路（株）の最近の取り組み	中日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 経営企画課長 杉井 淳一 氏
	阪神高速道路（株）におけるリニューアルプロジェクトについて	阪神高速道路株式会社 保全交通部 保全企画課長 村上 陽二郎 氏
	本州四国連絡高速道路（株）の最近の取り組み	本州四国連絡高速道路株式会社 経営企画部 シニアエキスパート 北川 竜三 氏
	西日本高速道路（株）の最近の取り組み	西日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 次長 田中 哲也 氏

#### 第2回 大阪

日 時	令和4年10月31日	
場 所	AP 大阪駅前（大阪府大阪市北区）	
聴講者数	31名 ※機器トラブルによりウェブ配信未実施	
プログラム	[演 題]	[講 師]
	AI の活用事例と今後の展望	国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター 招聘研究員 麻生 英樹 氏
	AI 活用事例の最新動向と成功の秘訣	ギリア株式会社 越智田 博徳 氏

## (5) 研究発表会の開催

当法人の調査研究の活動と成果や助成対象とした研究などを広く一般に公表し、普及・活用の促進を図ることを目的として研究発表会を開催し、積極的に情報発信した。また、講演会同様、オンデマンド方式のウェブ配信も実施した。

東京

日 時	令和4年8月5日	
場 所	星陵会館（東京都千代田区）	
聴講者数	71名（うちウェブ聴講者：32名）	
プログラム	[研究助成対象発表] プローブデータを利用した降雨下における高速道路の自動車の走行特性に関する研究	[発表者] 東京大学大学院 工学系研究科 博士課程 服部 充宏 氏
	砂利を部分的に固結したコンクリートの力学特性に基づく床版砂利化対策の提案	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授 藤山 知加子 氏
	長大橋のトラス桁－主塔まわりの横風特性	東京理科大学 土木工学科 助教 金 恵英 氏
	[研究発表] 諸外国における AET および走行距離課金の導入状況に関する調査研究	[発表者] 研究第一部 主幹 迫田 貴幸
	高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み～高速道路の橋梁技術史～	研究第二部 主幹 竈本 武弘
	高速道路における緑の価値の定量的評価に関する調査研究	特任研究員 佐藤 将

大阪

日 時	令4年11月1日	
場 所	AP 大阪駅前（大阪府大阪市北区）	
聴講者数	73名（うちウェブ聴講者：24名）	
プログラム	[研究助成対象発表] 北海道におけるインバウンドの高速道路の利用流動と滞留都市に関する研究	[発表者] 北海道科学大学 工学部 都市環境学科 教授 石田 眞二 氏
	交通地盤工学を応用した気候変動対応型舗装構造設計・性能評価法に関する研究	北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門 教授 石川 達也 氏
	地方高速道路および鉄道ネットワークが企業立地に与える影響の研究	京都大学大学院 工学研究科 教授 藤井 聡 氏
	[研究発表] 諸外国における AET および走行距離課金の導入状況に関する調査研究	[発表者] 研究第一部 主幹 迫田 貴幸
	高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み～高速道路の橋梁技術史～	研究第二部 主幹 竈本 武弘
	高速道路のカーボンニュートラルに向けた総合的な施策等に関する基礎的研究	研究第二部 主幹 竈本 武弘

## (6) 海外道路情報の収集・提供

海外の道路関係機関で発行している機関誌や公表している報告書・ウェブサイトなどから日本の高速道路事業に有益と考えられる情報や、当法人で実施した調査研究活動のなかで収集した海外の道路関連情報を、当法人の機関誌やウェブサイトを通して広く一般に提供した。

### ○ 『高速道路と自動車』での情報提供

掲載コーナー	掲載内容	掲載月	備考
海外ニュース	道路事業全般、建設、維持管理、有料道路経営、料金、環境、情報提供、ITS、ETC、新技術・新工法等に関する話題	毎月(20件/月程度)	年度累計219件(令和4年4月号～令和5年3月号)
報告	留学報告書(米国・フロリダ大学大学院)	R4.5月号	第54回留学支援
	留学報告書(カナダ・コンコルディア大学院)	R4.7月号	第54回留学支援
	第28回ITS世界会議ロサンゼルス2022	R5.1月号	
	第28回ITS世界会議出席報告	R5.1月号	
	留学報告書(英国・ロンドン大学シティ校)	R5.2月号	第55回留学支援
留学報告書(英国・ランカスター大学)	R5.3月号	第55回留学支援	
紹介	脱炭素化に舵を切った欧州大型車対距離課金	R4.5月号	

### ○ ウェブサイトでの情報提供

『高速道路と自動車』令和4年4月号～令和5年3月号「海外ニュース」に掲載した記事をウェブサイト上で提供した。

## (7) 国際道路機関との情報交換・交流

海外の高速道路における経済・技術に関する情報を収集することを目的として、道路関係の国際機関に加盟し、各機関が主催する国際会議への参加を通して情報交換・交流などを行った。

今年度は、WRA-PIARC、IRF、REAAA、EASTS-JAPAN、IBTTAに継続して加盟し、収集した有益な情報は、調査研究の基礎資料として利用するとともに、当法人の機関誌やウェブサイトなどを通じて広く一般に発信した。

### ○ 第118回REAAA評議員会出席

令和4年10月18日

### <加盟団体>

機関名略称	機関名	本部
WRA-PIARC	World Road Association-Permanent International Association for Road Congress (世界道路協会)	フランス
IRF	International Road Federation (国際道路連盟)	アメリカ
REAAA	Road Engineering Association of Asia & Australasia (アジア・オーストラレーシア道路技術協会)	マレーシア
EASTS-Japan	Eastern Asia Society for Transportation Studies-Japan (アジア交通学会)	日本
IBTTA	International Bridge, Tunnel and Turnpike Association (国際有料道路協会)	アメリカ

## II 公益目的事業2

### 講習等事業

高速道路事業の専門家などにより構成する「講習等事業委員会」を設置し講習会の開催企画や海外道路調査団の派遣ならびに海外に留学する者への支援などを審議した。

講習会は、高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の育成を効果的・効率的に進めるため、関係機関と調整しニーズを見極めるとともに、当法人の調査研究事業の蓄積や幅広い人的ネットワークなどの特徴を活かして企画・運営し継続的に充実を図った。

#### ○ 講習等事業委員会

第1回：令和4年6月6日

第2回：令和5年3月17日

### (1) 講習会

高速道路の建設と維持管理の業務に携わる技術者の技術力向上を目的とした「①建設・管理技術向上に資するための講習会」および高速道路の保安全管理業務の安全性向上のための「②保安全管理に関する講習会」ならびに今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした「③有料道路制度・料金制度に関する研修会」を継続して開催した。

#### ① 建設・管理技術向上に資するための講習会

高速道路の建設・維持管理に携わる技術者の技術力向上を目的とした防災、交通安全やAIなどに関する専門性の高い講習会および電気・通信・機械などの設備機器等に関する実務者向け講習会を6プログラム、18コース計画したが、更なる講習内容の精査により、1コース統合、3コース中止とし、6プログラム、14コースを開催した。

6プログラム14コース 受講者数1,615名 (R3:1,448名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
①高速道路の交通安全に関する講習会			
	12月14日	東京都港区	13名/20名
②防災に関する講習会			
	令和5年2月3日	東京都港区	13名/20名
③AI講習会			
	11月10日	東京都港区	16名/20名
④道路トンネルの技術に関する講習会			
	12月7日	東京都港区	16名/20名
⑤施設技術者実務講習会			
CCTV設備	11月30日	神奈川県横浜市	20名/20名
トンネル非常用設備	6月9～10日	埼玉県熊谷市	19名/19名
可変式道路情報板設備	10月12～13日	静岡県長泉町	30名/30名
交通量計測設備	7月26～27日	大阪府大阪市	15名/15名
自家発電設備	9月6～7日 9月8～9日	滋賀県長浜市	20名/20名 20名/20名
ETC設備	11月10～11日	静岡県御殿場市	24名/16名
受配電設備	6月23～24日	山口県岩国市	20名/20名
伝送設備	開催中止	—	—
⑥高速道路の現場監理に関する講習会			
土木 施設	令和5年2月1日～3月1日 (平日のみ)	ウェブ講習	1,227名 162名

## ② 保全安全管理に関する講習会

高速道路上の交通規制を伴う作業を統括する立場の技術者として、作業の安全性および作業従事者と一般通行車両の安全を確保するための知識の向上ならびに現場指導を行う上での能力向上を目的とした講習会を開催した。新規・更新コース受講者ともに、本講習会を受講した上で講習最後に新規コース受講者に対しては修了確認試験（択一式）、更新コース受講者（有効期間5年）には修了確認レポート提出により修了審査を行った。なお、本講習会と修了確認は、冬期開催からウェブ化し実施した。

1 プログラム5コース 受講者数 3,608名 (R3:3,792名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
保全安全管理講習会			
夏期 東京①	7月21日	東京都港区	532名/500名
夏期 東京②	7月22日	東京都港区	537名/500名
夏期 大阪①	7月27日	大阪市北区	408名/400名
夏期 大阪②	7月28日	大阪市北区	434名/400名
冬期 オンライン講習・修了審査	令和5年1月5日 ～2月3日		1,697名

## ③ 有料道路制度・料金制度に関する研修会

有料道路制度・料金制度について、研修生と学識経験者および実務経験者とのディスカッションや当法人における調査研究事業で蓄積した知見を活用し、さまざまな観点から考察することにより、今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした研修会を開催した。

1 プログラム1コース

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
有料道路制度・料金制度に関する研修会	第1回 9月29日～30日	東京都港区	11名/10名
	第2回 10月27日～28日		
	第3回 11月21日～22日		
	第4回 12月19日～20日		
	第5回 1月19日～20日		
	第6回 2月13日～14日		
	第7回 3月9日～10日		

## (2) 高速道路の点検診断に関する講習および資格付与

高速道路の安全性を高め、社会基盤の整備に寄与し、高速道路の点検診断技術者の育成と技術力向上を目的として、高速道路点検診断資格の講習会および資格試験を実施した。また、資格保有4年目および5年目となる者に対する更新講習会およびeラーニングを実施した。

平成30年2月27日に、本資格制度の高速道路点検診断士（土木）、高速道路点検士（土木）は、国土交通省登録資格の橋梁（鋼橋、コンクリート橋）分野とトンネル分野に登録された。

今年度は国土交通省登録資格に認定されてから5年目となることから登録更新を行った。

また、令和3年度から異常気象および新型コロナウイルス感染症等による講習会開催に支障をきたすことが無いように資格試験の講習会および更新講習の更新講習会をウェブ化しているところであるが、昨年度の課題改善を図り引き続き実施した。

### ○ 高速道路点検診断資格委員会

第1回：令和4年5月18日

第2回：令和5年1月17日

○資格試験 受験者数 2,751名（土木1,342名、施設1,409名）  
(受験者数 R3:3,031名)

○更新講習 受験者数 916名（土木491名、施設425名）  
(受験者数 R3:1,810名)

### ○開催概要

区分	開催日	開催場所
資格試験講習会	9月1日～22日	ウェブ開催
資格試験	10月23日～24日	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
更新講習会	11月15日～12月14日	ウェブ開催
更新試験	12月20日～1月16日	ウェブ開催

○資格付与者数 1,493名  
(土木) 診断士 89名・点検士 96名・点検士補 364名  
(施設) 診断士 175名・点検士 274名・点検士補 495名

○資格更新者数 894名  
(土木) 診断士 76名・点検士 80名・点検士補 322名  
(施設) 診断士 78名・点検士 193名・点検士補 145名

### (3) 海外道路調査団の派遣

海外の高速道路に関する最新の話題や建設事業または維持・交通管理の現場および休憩施設等に着目し、現地における調査や意見交換を通して理解を深める機会を提供することを目的として海外道路調査団を派遣している。

今年度は、全世界で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、収束の見通しが立たないことから、募集を中止した。

### (4) 留学支援

人材育成の一環で、道路および道路交通に関する経済的・技術的な研究を目的とした海外留学希望者に助成支援をするもので、外部専門機関の語学力試験結果をもとに支援候補者を選定している。

今年度は、留学支援候補者として2名を決定した。

また、令和2年度に留学支援候補者に決定した3名のうち、以下の2名が渡航を完了したことから支援金を支給した。なお、留学支援候補者1名は、辞退の申し出があった。

対象者の留学先および所属は以下のとおり。

募集年度	留学先学校等名	国	専攻	課程	助成者所属会社
第 56 回 R2	ハルト・インターナショナル・ビジネススクール	米国	経営学	修士	東日本高速道路株式会社
	テキサス大学オースティン校	米国	土木工学	修士	東日本高速道路株式会社

### Ⅲ 公益目的事業 3

#### 展示会事業

高速道路事業の専門家により構成する「情報提供事業委員会」のもとに、「ハイウェイテクノフェア」の主催者および共催者からなる「ハイウェイテクノフェア実行委員会」を設置し開催方針や運営方法について審議した。

「ハイウェイテクノフェア」は、高速道路事業や高速道路を支える最先端技術を紹介し社会一般の理解を深めるとともに、技術開発に携わる企業などには情報交換あるいは広報の機会を提供して技術の普及促進を図ることを目的に開催した。

また、当法人ウェブサイト「新技術電子カタログ」に、賛助会員および展示会出展者から提供される技術情報を掲載し広く一般への情報提供を行った。

#### ○ ハイウェイテクノフェア実行委員会

第1回：令和4年4月26日

第2回：令和4年10月25日

第3回：令和5年3月16日

#### (1) 展示会の開催

「ハイウェイテクノフェア 2022」を令和4年11月24日および25日に東京ビッグサイトにて開催した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、令和3年度に導入したオンライン展示も継続して行った。

また、国土交通省、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会ならびに公益社団法人日本コンクリート工学会に後援を継続して依頼し、広く出展者を募った。さらに、技術者継続教育(CPD)プログラムの制度を活用し、来場者の魅力度を高めた。

#### 展示会

展示会名	「ハイウェイテクノフェア 2022 - 高速道路を支える最先端技術」		
会 期	「リアル展示」	令和4年11月24日(木)～25日(金)	
	「オンライン展示」	令和4年11月17日(木)～12月14日(水)	
場 所	東京ビッグサイト 西1・2ホール		
主 催	公益財団法人高速道路調査会		
共 催	東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社		
後 援	国土交通省、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会、公益社団法人日本コンクリート工学会		
出展者数	「リアル展示」	290者 (R3: 254者)	
	「オンライン展示」	250者 (R3: 151者)	
来場者数	「リアル展示」	15,784名 (R3: 11,769名)	
	「オンライン展示」	5,232名 (R3: 2,067名)	

## 講演会

演 題	道路政策の挑戦 ～道路の進化と回帰～
講 師	石田 東生 氏 筑波大学名誉教授
日 時	令和4年11月25日(金) 13:30～15:00
聴講者数	358名(会場231名、オンライン127名) (R3:296名(会場156名、オンライン140名))

## (2) 新技術等のインターネットによる情報提供

技術情報収集の効率化、企業の技術開発支援や新技術などの普及促進を目的として、賛助会員およびハイウェイテクノフェア出展者から提供された新技術・新工法・新製品に関する技術情報をデータベース化した「新技術電子カタログ」を当法人のウェブサイトを提供した。

新技術電子カタログ掲載内容の充実を図るため、出展者への登録案内のほか既登録企業に対してカタログ情報の更新依頼を行い、情報の質と量の向上を図った。

令和4年度末の登録技術数は338、アクセス数は253,185であった。

## IV 公益目的事業 4

### 協力・支援事業

高速道路上の災害などへの諸対策や高速道路における救急救命対策への協力・支援など、社会に貢献する事業を実施した。

#### (1) 「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援

高速道路などにおける大規模災害発生時の支援や平常時の点検・訓練・技術力の向上および技術伝承などについて、高速道路の建設・管理に従事した経験者のボランティアからなる「防災エキスパート（高速道路サポーター）」活動を支援した。

今年度は、定期点検活動および全国各支部で開催された講演会などに延べ 495 名の会員が活動をした。

令和 4 年度末の会員登録数は 583 名である。

○ 防災エキスパート運営連絡会

令和 5 年 2 月 27 日

#### (2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援

高速道路の利用者や高速道路事業に携わるグループ社員等の方が一に備えることを目的として、高速道路事業に従事する者を対象に、「AED 実技講習会」を開催した。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、集合型講習とウェブ講習を併用して開催、60 分講習を収録した DVD を配布した。講習会は 168 回・144 拠点で実施し 1,403 名が参加、DVD 配布は 45 箇所であった。

## V 収益事業 1

### 調査研究事業

高速道路などの社会的・経済的・技術的な諸課題の研究に関連して、当法人での活動実績や能力の優位性を活かし受託契約などによる調査研究を行った。

今年度を実施した受託契約による調査研究は、9件であった。

- ・ 高速道路の点検・保安全管理技術に関わる海外情報収集業務  
海外の高速道路の点検等保安全管理の取組みの動向に関する調査業務
- ・ 諸外国における高速道路事業の経営環境の動向に関する調査研究  
諸外国の高速道路の整備状況、政策、関連法制度、財源、整備計画、実施方式等について、グローバルな観点から調査研究を行う業務
- ・ 高速道路の構造物に関する技術検討委員会運営に係る業務  
高速道路会社の構造物に関する技術基準類に対する策定および改訂の委員会に係る運営および技術基準改訂案に対する審議を通じた方針案の策定を行う業務
- ・ 令和4年度次世代高速道路のあり方に関する資料作成業務  
将来の高速道路に求められる機能・サービス、交通マネジメント等について調査研究を行う業務
- ・ 高速道路の保安全管理技術に関わる海外情報収集業務  
海外の高速道路の維持管理全般で利用される機械及び、取組みの動向等に関する調査業務
- ・ 高速道路の雪氷等保安全管理技術に関わる海外情報収集業務  
海外の高速道路の雪氷等維持管理で利用される機械、取組みの動向に関する調査業務
- ・ 高速道路における緑地の適正な維持管理手法のあり方に関する検討（その1）業務  
これからの高速道路緑地のあるべき姿を改めて見直すとともに、適正な維持管理手法のあり方を検討、提起する業務
- ・ 高速道路の料金制度等に関する調査業務  
高速道路の料金水準等の設定趣旨・経緯等に関する資料収集、整理を行う業務
- ・ 高速道路の交通管理業務に関する調査業務（令和4年度）  
交通管理業務における現場作業の安全性向上、効率化に資する技術情報の収集、整理を行う業務

## 【2】組織の運営

### 1 会員

#### (1) 賛助会員

調査研究事業を充実させ成果を的確に発信するとともに各公益事業を積極的に推進することにより、当法人の存在価値を高め、各事業への理解や協力を得られることに努めた。

令和4年度末の賛助会員数は、法人会員360団体、個人会員12名で、賛助会費の合計は17,519万円であった。今年度中における賛助会員数の動向については、法人会員1団体、個人会員2名の新規加入に対し、退会は法人会員2団体、個人会員3名であった。

#### (2) フェロー会員

当法人の調査研究の委員や講演会などの講師として事業に携わった学識経験者をフェロー会員として登録し、引き続き当法人の事業への参画・協力を得られるよう努めた。令和4年度末のフェロー会員数は157名である。

### 2 評議員会、理事会

令和3年度事業報告および決算、令和5年度事業計画書および収支予算書などについて審議を行うため、評議員会および理事会などを適宜開催した。

#### (1) 評議員会

##### 第23回 評議員会(定時)

開催日	令和4年6月8日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席11名・欠席6名(決議に必要な出席評議員の数9名)
議事事項	(報告) 令和3年度事業報告 (決議) 令和3年度決算の承認 (決議) 役員を選任 (報告) 理事会決定事項の報告

##### 第24回 評議員会(臨時)

開催日	令和5年3月30日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席15名・欠席2名(決議に必要な出席評議員の数9名)
議事事項	(報告) 令和5年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 (報告) 理事会決定事項の報告

## (2) 理事会

### 第 40 回 理事会(通常)

開催日	令和 4 年 5 月 20 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 1 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(決議) 令和 3 年度事業報告の承認 (決議) 特定費用準備資金の積立 (決議) 令和 3 年度決算の承認 (決議) 役員候補者の推薦 (決議) 顧問の委嘱 (決議) 第 23 回定時評議員会の招集の決定

### 第 41 回 理事会(臨時)

開催日	令和 4 年 6 月 8 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 6 名・欠席 2 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(決議) 代表理事の選定 (決議) 業務執行理事、常務理事の選定

### 第 42 回 理事会(臨時)

開催日	令和 4 年 11 月 15 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 8 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 評議員候補者の推薦

### 第 43 回 理事会(通常)

開催日	令和 5 年 3 月 20 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 1 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 令和 5 年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 (決議) 第 24 回臨時評議員会の招集の決定

## (3) 評議員選定委員会

### 第 15 回 評議員選定委員会

開催日	令和 4 年 12 月 5 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員 6 名 (うち外部委員 3 名) (決議に必要な出席委員の数 4 名(うち外部委員 2 名以上))
議事事項	評議員の選任

#### (4) その他

##### 監事監査 および 第 27 回 監事意見交換会

開催日	令和 4 年 5 月 10 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事 2 名 公益財団法人高速道路調査会 役職員 6 名
議事事項	令和 3 年度監事監査 第 40 回理事会議案説明

##### 第 28 回 監事意見交換会

開催日	令和 4 年 11 月 8 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事 2 名 公益財団法人高速道路調査会 役職員 5 名
議事事項	第 42 回理事会議案説明

##### 第 29 回 監事意見交換会

開催日	令和 5 年 3 月 8 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事 2 名 公益財団法人高速道路調査会 役職員 5 名
議事事項	第 43 回理事会議案説明

### 3 業務執行体制、内部管理体制、情報管理

#### (1) 業務執行体制

事業規模、事業内容、事業執行状況を見極めた上で、各人の能力が最大限に発揮できるよう柔軟に組織・人員の配置の計画・見直しを実施した。

令和 4 年度末の職員総数は 20 名である。

#### (2) 内部管理体制

当法人のガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの指針に基づき整備した内部規則の遵守を継続し、社会規範に従い誠実な業務の執行に努めた。

#### (3) 情報管理

当法人が保有する情報資産のシステム管理を強固にするため、各種対策を講じた。

- ・セキュリティ対策の強化
- ・データの管理レベルの強化
- ・オンラインを活用するための環境の強化